

外国にルーツを持つ子どもの実態・課題把握調査 概要

背景

日本語指導が必要な児童・生徒は過去最多（R3文部科学省調べ）。
外国にルーツを持つ児童生徒の背景は多様化・複雑化している。
学校内外で日本語レベル習得のための取組は進んできているが、母語や母文化については調査・分析が不足している。

目的

母語・継承語とアイデンティティの形成等に関する統計的調査を行うことにより、外国にルーツをもつ子どもの実態や特有の課題を把握し、その多様な背景に目を向けた有効な取り組みを検討するための材料・根拠を提供する。

調査概要

区分	内容
調査対象	県内6公立中学校（1～3年）の生徒 ※実施校において国籍を問わず全員に回答を求める
回収率	84%（集計対象サンプル数：2,080名）
調査方法	<ul style="list-style-type: none">学校から貸与されているタブレットを使用し、8言語の中からいずれかを選択匿名で回答し、個人を特定できる情報は収集しない
内容	<ul style="list-style-type: none">自尊心友達や家族との関わり母語・継承語レベルと日本語レベル母文化・継承文化に対する感情 等50問程度
実施年度	令和5年度
受託者	公立大学法人 静岡文化芸術大学 （研究代表者：文化政策学部 佐伯康考准教授）

調査結果と提言のポイント

◆ 母語・継承語のレベルと自尊心の関係性

調査結果	・「母語・継承語のレベルと自分自身への満足度」「母語・継承語のレベルと自己肯定感」には正の相関関係。 ・特に母語・継承語の「話す」レベルと正の関係性が強い。 →外国にルーツを持つ生徒たちの自尊心を育むために母語・継承語が重要であることが示唆された。
有効と思われる取組	<ul style="list-style-type: none">「話す」ことに重点を置いた母語・継承語教室実施言語・文化について学習・体験する催しなどにおいて、母語・継承語を活かして活躍できる機会を提供

◆ 母語・継承語のレベルと学校および家庭生活に対する満足度

調査結果	母語・継承語のレベルは、学校および家庭生活に対する満足度に関しても正の相関関係。 →大切な社会生活の場である学校と家庭での満足度向上のためにも、母語・継承語習得が重要であることが示唆された。
有効と思われる取組	<ul style="list-style-type: none">母語・継承語の教育を各家庭だけの問題とせず、社会全体として支援策（母語教室等）を講じる

◆ 教育現場での配慮の有効性

調査結果	・外国にルーツを持つ生徒たちは「学校の授業や宿題の内容理解」について「難しく感じることが多い」または「とても難しく感じる」を選択する割合が高かった。 ・外国にルーツを持つ生徒の77%が8言語の調査票の中から日本語での回答を選択。
有効と思われる取組	<ul style="list-style-type: none">難しい表現を平易な表現に言い換えるなどの配慮漢字へのルビ振り「やさしい日本語」を意識したコミュニケーション

◆ その他の提言

- 家庭だけでなく、学校や地域等においても母文化・継承文化に触れる機会をもつことがアイデンティティ形成の観点からも有意義。
- 物理的な距離にとらわれず、同じ背景や悩みを共有・相談できる人との交流機会を増やせるよう、学校におけるICT等の積極的な活用が有効。